

「森の友達」

～子供が創る問いで、善さを追究する探究型道徳～

1. 学年・組 2年東組 32名

2. 目指す子供の姿

自ら問いを立て、課題を解決しようとし、他者と対話する中で、自分や友達の考えのよさをみつけながら、よりよい考えを追究しようとする子供

3. 本時における「子供とつくる学び」

本時の主題の内容項目は、「友情・信頼」である。子供にとって、友達の存在は学校生活で重要な位置を占めるものであろう。本学級の子供は、この価値を主題として学ぶのは初めてである。授業者は、『子供とつくる学び』を「子供がつくる学び」と「教師がつくる学び」の二つに分けて考える。本時での「子供がつくる学び」は、友情についての問いをつくる点と、展開場面での子供の学級全体の考えを分析する場面である。「教師がつくる学び」は、子供がつくった問いについて共に選定すること、また、児童の思考を深めさせるため、適宜子供の思考に適した発問をすることを行うことである。「子供がつくる学び」で探究的な問いを子供自身で考えることでその問いが自分のものとなり、道徳性を高めることを意図している。「教師がつくる学び」では、教師の基本姿勢として、指導言を内容項目の理解を深めたりすることや子供同士を繋げるたりすることに留め、ファシリテーターの役割を担うこととする。その二つの学びが合わさった時が、『子供とつくる学び』が実現されている状態であろう。よりよい友情観について考えることで、いじめを生まない心を児童の中に育んでいく。

4. 「子供とつくる学び」を実現するための手立て

授業者は、「子供とつくる学び」についての手立てを以下のように設定する。

○探究型道徳

道徳的諸価値について子供が問いを創り、教師と共に選び→（課題の設定）ファーストアンサーを持つ→対話→分析→振り返りでファイナルアンサーを持つというような探究型のサイクルを授業の中に取り入れることで道徳性を養い、高めさせる。

○ICT上での対話

授業の展開部分で、より多くの考えに触れ、高次の思考へと発達させるため、友達の考えを吟味させ、より善さを追究させる。授業の展開～終末部分では、他者の意見に価値づけ、意味づけを行うことで自己の生き方や自己の考えを深めさせる。（情報収集・整理・分析）

○単元計画の設定

事前に、子供が道徳的諸価値についての問いを自ら設定できるように単元計画を組むことで、本時での価値理解を深め、価値について思考し、対話を通して、より善い考えを深められるようにする。学級全体で問いを共有することで子供が主体的に課題に取り組みられるようにする。

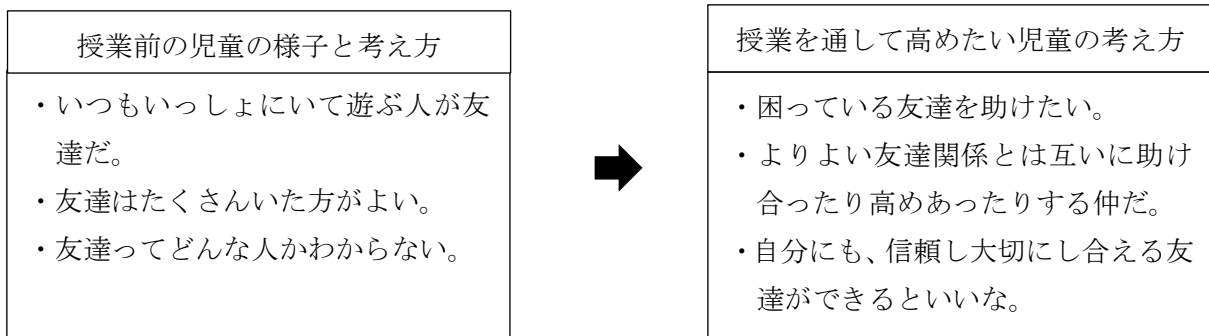
5. 教材について

森の動物たちのところに、コンキチがやってきた。森の動物たちは友達が増えた初めは喜ぶが、コンキチは森の動物たちに、意地悪や乱暴をするので、次第にコンキチを見ると逃げ出していた。ある日、いつものようにコンキチが動物たちの前に来ると狼が現れ、コンキチをおそった。コンキチが困っていると、逃げ出した動物たちが引き返してきた。動物たちが、狼に向かってる間に、コンキチは逃げ出す。が、コンキチはふと立ち止まり、考え出す。そして動物たちの元へと戻り、友達や友情の大切さに気づき始めるという内容である。コンキチは乱暴者であったが、最後に変容が見られる。その変容ときっかけをおさえること、また助言者であるコンキチを助けた動物たちの思いをおさえることで、「友情・信頼」の価値の理解を深め、よりよい友達関係について考えていくことのできる教材である。コンキチの変容のきっかけとなる動物たちの姿はまさによりよい友情観を映し出している。動物たちの、自分たちがいじわるをされていたにも関わらず相手を助けたい、という思いは、友達を大切にしたいという強い気持ちである。その友達を大切にしたいという友情観がコンキチの友情観に気づきを与え、コンキチの友情観を高め、お話の後の動物たちは、相互に高め合う友情へと変容していこう。意地悪をする側、される側両方の立場の気持ちを考えることができ、友情について多面的・多角的に捉えられ、いじめ防止教育にも貢献することのできる教材といえよう。

6. 内容項目の目標

友達と仲良くし、助け合うこと。【低学年B-（9）友情・信頼】

7. 期待する児童の変容



8. 単元計画

次	時	内 容
1	1	「友情・信頼」について考えたい問いをつくり、選定して、ファーストアンサーを書く。
2	2	「森の友達」を読み、前時に学級で立てた問いについて対話を通して深める。★本時

9. 本時の目標

みんなを残して逃げてしまったコンキチの思いについて考えることを通して、仲良く助け合うことのできる友達を大切にできる道徳的心情を育む。

10. 本時の展開

